

# K U M A M O T O A R T P O L I S N E W S



vol.41 2016.3



## C O N T E N T S

新規プロジェクト  
シンポジウム  
プロジェクト速報  
アートポリス推進賞  
こども建築塾  
プロジェクト見学バスツアー  
みんなの家  
トピックス

## 新規KAPプロジェクト#92

# 熊本県総合防災航空センター 設計者選定プロポーザル

「九州を支える広域防災拠点構想(H26.1)」に基づき、防災関係への広域活動拠点として整備する熊本県総合防災航空センターを、くまもとアートポリス事業として取り組むこととなった。

くまもとアートポリス事業によって、九州における災害時の拠点及びその役割を広くアピールするとともに、県民の防災意識の高揚を図り、また、大空間の構成や防火性、耐震性を要求するヘリ格納庫における県産木材の活用に挑むこととした。国内外で活躍する建築家5者からプロポーザルにより選定した設計者と、ノウハウ及び調整能力を有し、本施設の設計業務に意欲的に取り組むことのできる県内の建築士事務所が、共同で設計にあたる。

平成27年8月26日に熊本県立大学において、公開審査(参加者:約110名)を開催し、伊東豊雄コミッショナーらの選考により、最優秀賞に『小川次郎+アトリエ・シムサ』を選定した。また、最優秀賞受賞者と共同体を組み設計業務を行う県内共同事務所の選定については、事務所の体制、実績及び配置予定技術者など総合的に判断した結果、(株)ライト設計(熊本市)を選考した。

最優秀賞

## 小川次郎+アトリエ・シムサ (東京都)



表彰式終了後に記念撮影

### 講評(評価のポイント)

構造、ボリュームの操作、プランニング、すべてにおいてデザイン性と機能性とのバランスがとれていることが高く評価された。空港の一角にこの建築が置かれたときの「たたずまい」が周囲の風景にじっくりくる。また、勾配のある屋根は非常に良い景観をもたらすであろう。若干気になるのは、開口部のつくり方がややデザイン性を過剰に意識されていた点。運行管理室と防災消防航空隊事務室の空間連携に関しては修正が必要であるのではという点に関しては現プランニングの延長上で再配置可能であると判断。このようなことが論議対象となったが、総合的に全審査員の賛同を得る高評価を得た。限られた予算の範囲内で、地場産材を活用した木造を取入れ、環境に配慮し機能的で機動的な空間の要求とデザイン性を如何に対応させるか、そのバランスをどのように考えるかが今回の提案で重要なテーマであった。最優秀案は、その兼ね合いが高く評価された。



内観模型写真(格納庫)



外観パース



### 受賞コメント(小川次郎氏)

アートポリスは、学生の頃から非常に憧れ、勇気づけられてきた。最優秀賞に選んでいただけたことは本当に光栄に思う。関係者の方々対話を重ねながら、皆さんに喜んでもらえる建築をつくっていきたい。



## 事業趣旨及び概要

本県では、熊本地域が真に九州における広域防災拠点としての役割を担うために、基盤や機能の充実・強化を促進することを目的として、平成26年1月に「九州を支える広域防災拠点構想」を策定した。また、平成27年3月には、広域的な救助や医療活動の拠点となる拠点として熊本空港が選ばれた。

このため、老朽化した防災消防航空センター及び警察航空隊基地並びに大規模災害時に集結する災害関係ヘリの運用に必要な施設を一体的に整備し、防災関係ヘリの広域活動拠点とするとともに、広く情報を発信し、県民の防災意識と防災知識を向上させることとした。

- 事業者:熊本県(消防保安課)・熊本県警察本部(通信指令課)
- 計画規模:延べ面積1,910㎡
- 建設地:菊池郡菊陽町戸次字東中尾地内(阿蘇くまもと空港南東部に隣接する防災エプロン部分)

**スケジュール(予定)** ● 設計:平成28年3月 ● 工事:平成28年度～

## 審査員



審査員長  
**伊東 豊雄**  
くまもとアートポリス  
コミッショナー



**桂 英昭**  
くまもとアートポリス  
アドバイザー



**末廣 香織**  
くまもとアートポリス  
アドバイザー



**曾我部 昌史**  
くまもとアートポリス  
アドバイザー



**徳永 信之**  
県防災消防航空センター  
所長



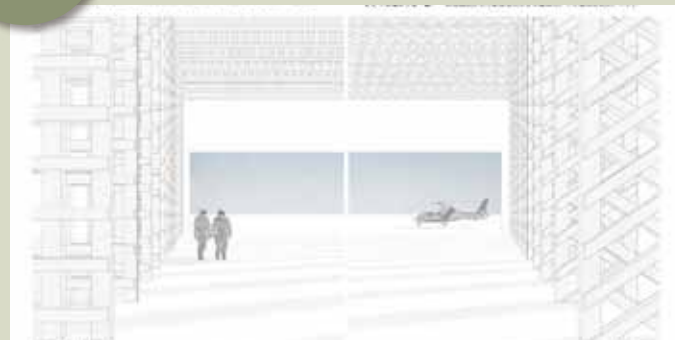
**今村 光宏**  
県警本部通信指令課長  
兼航空隊長、警視

## 公開審査の状況



## 優秀賞

### 福島加津也+富永祥子 建築設計事務所(東京都)



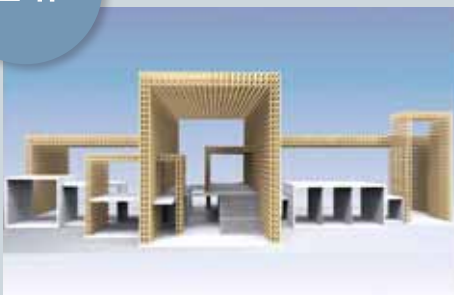
#### 評価のポイント

即物美の追求であり、デザイン的に過剰なことを避け、できるだけシンプルにということが明快に伝わる力強い提案であった。プランニングが素っ気ない印象を与えがちなのが残念であるが、コンクリートと木構造で合理的にできている。



## 佳作

### 陶器浩一(滋賀県)



構造家である陶器氏らしい特徴的な構造で、シンプルで魅力的な提案であった。

### 古森弘一建築設計事務所(福岡県)

### サルハウス SALHAUS(東京都)



エネルギーの問題を中心にデザインを展開した提案が他案になく魅力的であった。



プランニングの構成が非常に良く、ボールドを連続させた屋根がユニークな提案であった。

※ パース、模型写真はプレゼン資料の一部





# Symposium

## くまもとアートポリスシンポジウム ホスピタリティと建築

—これからの病院をみんなで語り合う—

急激な社会変化の中で少子高齢化社会や防災などをはじめとする安心安全への対応が街づくりや建築に求められるようになってきた。

個々の建築は単独で存在をアピールするのではなく、人と人、地域と人、文化と人を繋ぐ場としての役割が重要視されはじめています。数ある公共性の高い建築の中でも特に病院建築においては、質の高い医療行為の提供を可能とする環境づくりと患者との相互理解を深めるため、様々な観点からのホスピタリティの充実が求められている。

今回のシンポジウムは、医療文化が高く評価されている熊本で「ホスピタリティと建築」をテーマに、これからの病院建築に焦点をあて公共的な建築の未来について語り合った。

■日時:平成28年2月1日 ■会場:くまもと県民交流館パレア パレアホール ■参加者:240名

### 第1部

講演 「これからの公共建築・都市 この場所にしかない建築」  
伊東 豊雄氏 建築家・KAPコミッショナー

「この場所にしかない建築」をどうやって  
つくっていくのがアートポリスにとって大切。

「新国立競技場」のコンペでは、伝統と近代化を統合しながら守られてきた明治神宮という聖地に新たに創り直すとするれば、どのように表現することで新しい伝統を継承することができるのかを考えた。「みんなの森 ぎふメディアコスモス」では、日射量が豊富な地域で太陽光や地下水、県産木材を利用して、この場所にしかない建築をつくった。近代主義の建築は、新しい技術を使って世界に同じものをつくることのできるという考え方で、これがグローバル化の経済体制を利用して、世界の都市に均質な人工的な環境を蔓延させた。そして、都市の場所性や地域性、歴史性を排除してきた。21世紀の課題は、身体の奥深くに潜在している日本の伝統を顕在させ、この場所にしかない建築をつくることだと考える。KAPでは、このことを重要なテーマとして頑張っていかなければならない。



伊東氏

### 報告 プロジェクト「高野病院」



川島 浩孝氏  
共同建築設計事務所

熊本の自然と人々のおおらかさを建物全体で感じられるような新しい病院像を提案した。わかりやすさや快適性・効率性の両立、環境の選択制、個別性の尊重、可変性の5つをキーワードを設定して設計を進めていった。



柳澤 潤氏  
コンテンポラリーーズ

KAPのテーマ「自然に開き、人と和す」にそって公共性をもたせ、誰もが親しみやすい環境・空間をつくることを目指し、自然を受け入れ人との交流を促す“ひろば”のような病院をつくりたい。利用者・スタッフのため、そして周辺に対して穏やかな空間をつくるため、たくさんの「庭」で緑の風景をつくった。まわりの環境に対し閉塞的にならない表裏のない外観デザイン、県産材を活かした内装、熊本の自然の色をイメージしたサインなど、周辺環境や熊本らしさも大切にしている。

# 「病院建築を考える 安全・安心・快適を求めて」

福田 稠氏 しげる 熊本県医師会長、福田病院理事長

福田病院は産科を中心とした産婦人科病院で、年間3,500名近くの新生児が誕生する。お産は病気やけがではなく、産科は医療の場であると同時に生活の場と考える。そこで大切なことは、「安全」「安心」「快適(感動的)」であること。「安全」は十分なスタッフ確保と機器・設備の充実や他の病院との連携により実現。「安心」は、スタッフや病院に親しみを持ってもらうこと。「快適」は入院期間を楽しんでいただくための食事やイベント等に工夫を重ねている。



病院建築に求められるものは、医療機関としての万全の施設、働きやすい環境、患者に安心とくつろぎを与えられる空間。このような空間を設計者が自身の思いと重ね合わせて、いかに実現してくれるかが大切であり、また、施主がどんな建物を望んでいるかも重要である。今は医療機関や介護施設を軸として地域をつくっていくことが大切で、そのためにも病院という建物は大きな存在だと考える。

パネル  
ディスカッション

## 「これからの病院づくりー安心のランドマークー」

熊本には多くの病院があり、まちへの影響力も大きい。情報公開の場があればあるほど、「みんなで考え、みんなでつくる」ことができ、建物や街並みは変わっていくのではないかと。(桂アドバイザー)

### パネリスト

#### 病院を核にした新しいまちづくりを目指す

故山田守氏設計の現病院は曲線が特徴的で、建設当時はインパクトがあっただろう。通信病院時代から60年にわたり診療を続けてきたが、医療環境の変化により建替えが検討されてきた。「未来の街づくりに沿う医療の提供」をコンセプトに、高野病院の西側に新病院を建設中。明るく親しみやすく地域と共に



藤山 重俊氏  
くまもと森都総合病院理事長

に成長する病院づくりを目指し、病院機能はもちろん環境整備やソフト面の充実にも取り組んでいる。高野病院と連携して1+1=2ではなく3となるよう頑張っていきたい。

#### 病院初のアートポリス参画 全職員がひとつに

「ホスピタリティと建築」がまさにKAP参画への重要なポイント。当初は不安もあったが、地域貢献を目指すKAPの考え方に共感し、医師と設計者が一緒にいいものをつくっていきたくないと参加を決めた。



山田 一隆氏  
高野病院理事長

職員の意見を聞き、設計者と協議を重ね、患者へのホスピタリティはもちろんのこと、職員の安全性にも十分配慮した、いいものとなった。くまもと森都総合病院とともに、地域に根ざした病院としていきたい。

#### これからの病院の評価が今から楽しみ

有名建築家が設計した建物からの建替えを決定されたくまもと森都総合病院と勇断をもってKAPに参加して新病院を建築される2つの病院は対照的。10年後、どちらの病院も地域のランドマークとなっていることを期待。



福田 稠氏

### 司会

桂 英昭氏  
KAPアドバイザー

### オブザーバー

伊東 豊雄氏  
川島 浩孝氏  
柳澤 潤氏  
末廣 香織氏 (KAPアドバイザー)  
曾我部 昌史氏 (KAPアドバイザー)

### オブザーバーのコメント

「第一部の講演から、地域へ注目することが新しい建築の役割であり、奇抜なデザインとは異なるオリジナリティを生むということが一貫していて興味深い。」「地域のアイデンティティはみんなで一緒に考える中で生まれるもの。アートポリスが、みんなで考える建築のきっかけになればいい。」「みんなに意見を聞きながら進めた高野病院の設計プロセスは、これからのアートポリスで最も重要だ。利用者と話をしながら建物が立ち上がっていくようなつくり方ができれば、もっともっといい建築ができていく。」

### 参加者の感想

- 「場所性」の大切さは理解していたが、そのとり入れ方が難しいところであり、手法がよくわかる内容だった。(建築士事務所)
- 日頃とは異なる視点でのディスカッションで刺激的だった。病院を取り巻く多様性を感じ、病院を外から見るといい機会だった。(病院関係者)
- 単なる医療施設ではなく、街全体を考慮した美しい施設になるのではと、期待の持てる話だった。(医療機器メーカー)



## 安心のシンボルの建設進んでいます! -高野病院-

平成27年9月に起工式が行われた高野病院は、現在基礎工事中で、免震装置設置後、今春から鉄骨工事が始まる。施工は松尾・岩永特定建設工事企業体。

平成29年春の新病院オープンに向けて順調に工事が進んでいる。



共同建築設計事務所  
永野 敦士氏

地元熊本で、KAP初の医療福祉施設の設計監理に携われることを誇りに感じています。施主・施工者・監理者が三位一体となって、病院利用者のみならず、地域に対してもよりよい環境を提供できる、後世に残る病院建築を目指します。



完成模型



コンテンポラリーズ  
村野 泰弘氏

歴史ある高野病院とKAPに関わる事が出来て喜びと責任を感じています。病院と地域が今まで以上に交流できる公共性の高い建物が実現できるように精一杯全うしていきます。熊本ライフを楽しみつ。



松尾・岩永特定  
建設工事企業体  
牛島 英一氏

今回、KAP初の医療施設建築工事に携わることができ大変嬉しく思います。平成29年春の竣工に向けて、工事スタッフ一丸となり品質管理・安全施工に努めていきたいと思ひます。

## 2014年アジア学生コンペの提案が具体化へ! -愛・ライフ内牧みんなの家-

阿蘇市にある医療法人社団坂梨会が運営する介護老人保健施設の中庭に増設される「みんなの家」を付設する温泉リハビリテーション施設を課題とし、平成26年11月に国際学生設計コンペティションを行ったプロジェクトが設計を終え、工事着手に向けて動き出した。

KAP参加プロジェクトとして、コンペで最優秀賞を受賞した九州大学及び延世大学(韓国)の学生と、太宏設計事務所(熊本市)で設計を担当。

病院スタッフの方々との意見交換を行ったり、実際の敷地で建物の位置を確認する縄張りのワークショップを行ったりしながら、何度も協議を重ねてきた。

平成28年中の完成を予定している。



6



病院スタッフを交えての打合せ



縄張りワークショップ



九州大学での打合せの様子



阿蘇温泉病院  
山部 愛さん

今回のプロジェクトは、海外の大学も含めた設計コンペの対象となりましたが、沢山の学生の方々が、当施設のために素晴らしいアイデアを出していただき、そこに思いを入れて下さったこと。きっと介護の世界についてはあまり知らないはずなのに、私たちの想いや希望を図面に表して下さったことに、大きな感動を受けました。私たち職員は、学生の皆さんの想いの詰まった「みんなの家」が完成したら、地域の皆さんに寄り添って喜んでいただける「より良きケア」を行っていきたく思います。



九州大学  
土井 彰人さん 前田 清貴さん

両大学のコンペ時のコンセプトを残しつつ、施主の要望を取り入れながら設計することは難易度が高いものでした。提案を施主に採用してもらうためには、伝え方を工夫する必要があり、最後まで納得のいくプレゼンができたわけではありませんでした。

しかし、病院スタッフの方々とも意見交換を重ね、利用者やスタッフの方にとってより使いやすい設計になるよう努めました。こだわりと歩み寄りを繰り返した設計過程は他の何にも変え難い経験です。関わりを持てたことに感謝致します。



延世大学  
ジュワン キム  
Juwan・Kimさん

一見住宅のような外観にも見えますが、その中にある考え方や過程はこのみんなの家プロジェクトが持っている本質がそのまま表れており、大きな屋根の下で様々なプログラムを統合したいというコンセプトは活かすことができたと考えています。コンペ案からは大きく変わった部分もありますが、施主の要望や条件を形にすることができたのは、関係者みなさまの協力及び努力の結果だと思ひます。韓国建築ではなかなか経験できなかった設計過程はすごく勉強になりました。皆に感謝を伝えたいです。



# 第21回 くまもと アートポリス推進賞

県内各地の優れた建造物を表彰することにより、県民の建築文化に対する関心を高めることを目的とした「くまもとアートポリス推進賞」。県内外から35点の応募があり、推進賞5作品、推進賞選賞4作品を選出した。

## 推進賞



### Lee子どもクリニック(合志市)

Lee子どもクリニック 院長 李 光鐘さん

患者様をお待たせしないこと、そして患者様を順番通りに診るという制約から解放してほしいという想いを設計者が見事に形にしてくださいました。機能的な形とデザインを紡ぎだし、現実のものとしていただいたことに感謝しています。



### 千丁の家(合志市)

(有)円ホーム 岩松 あつみさん

今回の受賞は、施主様、space lab一級建築士事務所、そして円ホーム60名余りの現場施工チームの皆さんのおかげ。これからも熊本の都市景観づくりに寄与できるよう、ひとつひとつ丁寧に建築の仕事をしていきたいと思っています。



### 京町の家(熊本市)

TASS建築研究所 代表 田中 智之さん

京町の家は熊本城のすぐ横に建ち、熊本城の城壁に負けないスケール感と周辺の美しい景観を十分に取り込みながらプライバシーと開放性を両立したいということコンセプトに設計・建築を進めました。良い住宅ができたと思います。



### T.house in 武蔵塚(熊本市)

施主 富田 ゆり子さん

家を作ると決めた時からアートポリス推進賞は目標でしたので、主人と二人、大変喜んでます。住み始めて1年、デザインも施工も本当に素晴らしい、特に“住みやすさ”という点でも感動しています。



### 33°46'48”(熊本市)

岩瀬隆広建築設計 代表 岩瀬 隆広さん

「冬、暖かい家にして欲しい」と言うのが施主様のいちばんご要望でした。そこで、太陽の日差しがたくさん差し込むような心地良い空間をデザインとして実現した家です。この受賞で、さらに新しい光りが差し込んで来たようです。

## 現地審査の様子



## 推進賞 選賞



### 玉東町の家(玉名郡玉東町)

施主 角田 保治さん

1年前に新聞でこの推進賞の存在を知り、どうしてもこの賞が取りたい!と設計士さんにお願いしたところから家づくりがスタートしました。夢であった賞が取れて本当に嬉しく思います。家族3人で快適に暮らしています。



### 第一幼稚園(熊本市)

学校法人第一学園

理事 伊藤 大介さん

学校建築は教育理念を実現するにふさわしいものでなければなりません。子どもたちの自立と豊かな創造性を育む空間設計、デザインをしていただき、本当に満足しています。



### 南阿蘇の小さな診療所(南阿蘇村)

設計者 spacelab.一級建築士事務所

代表 佐藤 健治さん

とても小さな診療所ですが、素朴で親しみのある南阿蘇の風土や自然の中にできるだけ溶け込んでくれるような気持ちで設計させていただきました。施主様も一緒に施工に携わってもらったのがよかったと思います。



### 薬味筆筒の家(山鹿市)

設計者 (株)福山空間建設研究所

代表 福山 博章さん

豊前街道で「一番危うい」と言われていた倒壊寸前の建物であり、間口に壁が一つもない中、特殊な構造をもって何とか再生することができました。百年後まで残るように、という施主様の想いが実現出来たと思います。



受賞者・関係者とくまモンで記念撮影

## 表彰式 12月16日 県庁「県民の広場」にて



北野 隆審査委員長  
から講評

表彰式には  
くまモンも登場!



12月15日~16日の  
2日間、受賞作品のパネル展を  
開催しました。



# こども ケンチク塾



**こんな家に住みたい!** 小学生の  
“夢の家”が大集合!

8月23日(日) 熊本県庁にて開催

子供たちに建築やまちに興味を持ってもらうため、アートポリスプロジェクト「熊本南警察署熊本駅交番」の設計を手掛けた建築家アストリッド・クラインさんを講師に迎え、「こども建築塾」に小学4年生から6年生19名が参加した。用意されたたくさんの材料を使って「夢の家の模型づくり」を楽しんだ。クラインさんは“実際に家が建つかどうか



アストリッド・クラインさん

かなんて考えないで、好きな色や材料を使って自分が楽しくなるような模型作りを楽しみましょう”と挨拶。早速、5つの班に分かれて夢の家づくりが始まった。

## 作るうちに発展していく面白さ つくる楽しさがアイデアの素



クラインさんも子どもたちにアドバイス

子供たちは厚紙やモール類、ボード、カラーマジックなどを使いながら平面のアイデアを3次元の模型に仕上げていく。クラインさんは“楽しんでいる？

自分が楽しくなるモノを作ってください”とアドバイス。「夢の家づくり」を県建築士会青年部のみなさんにも協力していただいた。昼食も早々にすませて模型づくりは約3時間も続いた。



## 宿題だった家の設計図を持ち寄り、 プレゼンテーションからスタート



各班に分かれて設計図を発表します

まず、自分の設計プランを発表。「海に浮かぶ家を考えてきました。ドーム型の家の中には床がガラス張りで見えるようになっていきます。」「大好きなぬいぐるみ達と一緒に暮らせるような家を作りたいです。」など、子供らしいかわいさと素直な色使いやユニークなデザインが次々と発表され製作に入っていた。



部屋のこだわりや面白い仕掛けもあります!



私の好きなハート形の屋根にしました!

## いよいよ完成発表会 クライン賞も2名決定!

完成した作品のポイントを自らプレゼンしていく。子供たちからは質問や作品に対する感想が次々に出され、中には会場の笑いを誘うようなユニークな発言も飛び出し、大いに盛り上がった発表会となった。特に優秀だった2作品をクラインさん自らが選定し賞状と記念品をプレゼント。参加者全員にこどもケンチク塾の受講証が渡され、参加者全員で記念撮影を行い終了した。



プレゼンの様子



クライン賞 本田翔太くん



クライン賞 森由旗人くん







鮎の瀬大橋



馬見原橋



明治の石積みが残る三角西港(宇城市)



築港記念館で説明を受ける参加者



県庁に集合し大型バスで出発

当日はあいにくの雨模様。県内39名の参加者が県庁を出発。まず向かったのは世界文化遺産に登録された三角西港。案内ボランティアの方からの説明を聞きながら100年以上前に築かれた岸壁や石造りの水路、ムルドルハウスなど、当時の最新の技術を用いて造られた近代的な港湾都市を見学した。

# 世界遺産と日向往還を 廻るバスツアー

11.29  
SUN

タリックオレンジのケーブル、視線を下した先には溪谷の美しい風景が広がる情景に「設計者の力に感動した」との声。橋のもとにある「鮎の瀬交流館」で地元の新鮮な野菜や米・加工品などの買い物も楽しんだ。



溪谷を跨ぐ美しい鮎の瀬大橋(山都町)

上から下から素晴らしい石組みアーチの造形美を楽しみ、熊本の風土の豊さに改めて感銘を受けた様子。



昼食会場の佐俣の湯(美里町)

鮎の瀬大橋では、上を見上げれば大迫力のコンクリートタワーとメ



豪快な放水も見物

次に向かったのは山都町の通潤橋。多くの見学者とともに放水の瞬間をカウンタダウン。迫力満点の姿に歓声があがった。橋の

- バスツアーコース
- 県庁(08:30)出発
  - ↓
  - 三角西港
  - ↓
  - 佐俣の湯(昼食)
  - ↓
  - 通潤橋
  - ↓
  - 鮎の瀬大橋
  - ↓
  - 馬見原橋・商店街
  - ↓
  - 県庁(18:00)

最後に、かつて宿場町として栄えた山都町馬見原地区。馬見原橋は上が車道、下が歩道という二重構造の橋桁が特徴的で、ウッドデッキの歩道を上がっていくと夫婦岩が出現する。この夫婦岩のしめ縄に吸い込まれるような神秘的な雰囲気を感じながら街歩きがスタート。馬見原街づくり協議会の方の案内で石畳が続き商店街から老舗の味噌醤油蔵、昔ながらの商店、街のシンボルにもなっている火伏地蔵などを見て回った。

## 参加者感想

- アートポリスのことを随分知ることができ、興味がわいてきた。建物や橋は素晴らしく勉強になった。もっと多くの人に知らせられたらと思う。(60代・女性)
- 歴史を知り、変遷を知り熊本再発見の旅だった。(60代・女性)



宿場町風情が漂う馬見原商店街



構造美と機能美が注目される馬見原橋

三角西港



通潤橋



馬見原商店街







# みんなの家

～復興支援から地域のコミュニティを支える新たな拠点へ～

## 阿蘇「みんなの家」の新たな活用

平成24年7月に発生した熊本広域大水害の被災者支援として取り組んだ2棟の「みんなの家」を、仮設住宅の供用期間が過ぎた後も、被災された方々のご意向により、新たな地域のコミュニティ施設として移築再生した。

ただ単に移設するのではなく、「みんなの家」の趣旨を引継ぎ、移設場所や移設方法についても丁寧に地元の意見を聞くことで実現方法を模索し、新たな敷地の形状や利用方法に合わせ平面計画を見直し、再利用可能な資材の活用など実用性と経済性にも考慮しながら、新しい「みんなの家」の再生を実現した。

アートポリスの人材育成事業として、多くの方々の協力のもとに実現した「みんなの家」は、被災者支援の施設から地域のコミュニティを支える新たな拠点として再生することができ、過疎化や高齢化など様々な課題を抱える県内の地域でも、持続可能な社会を築くうえで、大きな役割を果たすことが期待できる。

このプロジェクトで重視した「人々のつながり」は、安全安心に限らず、地域の活性化の面でも、これからの社会で最も重要なテーマとなるだろう。

地域の絆を取り戻し、  
災害の教訓を語り継ぐ  
場として活用したい！

復興のシンボルに  
なっていきたい！



高田住宅みんなの家は  
土井地区の(古城5-1区)「公民館」として移設



内観写真



落成式の様子



池尻・東池尻住宅みんなの家は  
阿蘇市営池尻住宅の「集会所」として移設

## 東北支援「みんなの家」がニューヨークへ渡る！

被災された方々が安らぎを感じる空間を、設計から完成までみんなで話し合い、多くの方々の協力を得て実現した「みんなの家」(宮城県仙台市)がアメリカ・ニューヨークで開催された「日本の復興力」の展覧会において紹介された。

### 「日本の復興力」(日本クラブ主催)

震災から5年が経過した日本の復興の姿を紹介する展覧会  
平成28年1月28日～2月23日

東日本大震災復興の具体的な事例が、世界各地で起こりうる災害からの復興に際して参考になるよう、カメラマンや学生ボランティア団体、芸術家など様々な人々の作品の展示によって紹介された。



### ◀ 建築家たちの取り組み

学生ボランティアYouth for 3.11が伊東コミッショナーにインタビューをしている映像とともにみんなの家のパネルが展示された。



展覧会の様子▶



アートポリスは事業開始から今年で28年目となり、当初竣工したプロジェクトは四半世紀を迎える。その時代に合わせて手法を変えながら継続してきたアートポリスの歴史を感じさせるイベントや映画の公開があった。

## 今年25歳を迎えたアートポリス参加プロジェクト



熊本北警察署(熊本市中央区)  
設計/篠原一男+太宏設計事務所

アートポリス参加第1号プロジェクト。正面はすべてハーフミラーを採用、上層部分には柔剣道場やギャラリーが配置されており上に行くほど広がる構造が特徴的。



湯の香橋(葦北郡芦北町)  
設計/岸和郎

橋のデザインとして照明効果を考慮し、橋の下の水面に光が廻るように計画されている。夕暮れの散歩も楽しめる。



球磨工業高校伝統建築コース  
加工組立室棟(人吉市)  
設計/象設計集団

建物が教材となるよう、トラス梁はもちろんその他の構造材が内部からみえるようになっている。



石打ダム管理所(宇城市)  
設計/青木茂

8枚の壁が地盤から立ち上がり、その間に空間が作られている。内部はダムの湖底に水没した、美しい林をイメージしてカラフルなデザインが施されている。

## けんちく寿プロジェクト



八代市立博物館・未来の森ミュージアム(八代市)  
設計/伊東豊雄

熊本まちなみトラスト会長らで運営している「けんちく寿プロジェクト」実行委員会では、熊本にある建築の生き続ける姿を人生に例えて、成人式や還暦のお祝いなど節目を祝うプロジェクトを平成22年から開催している。第1回の「熊本北警察署」の二十歳のお祝いにはじまり、今年の第6回は、「八代市立博物館」の25歳を寿ぐとして、見学会やテーマトークが開催された。今回のテーマトークでは、博物館へのお祝いの品の贈呈後、当時設計を担当した曾我部昌史氏や当時の行政、学芸員、施工担当者らが出演し、苦労した昔話など普段は聞くことのできないミュージアムの裏話も聞くことができた。



## アートポリスが映画に! —だれも知らない建築のはなし—

70年代から現代までの日本建築の変遷を、磯崎新氏を中心とした国内外の著名な建築家へのインタビューによって描いた映画。監督は石山友美氏。映像に映し出された51の建築のうち、12の建築がアートポリスプロジェクトであるなど、時代の変化の中で、より開かれた民主的取組みへと変容をとげるくまもとアートポリスの姿が映像で紹介された。熊本では7月に熊本市内の映画館で上映されたが、当初1週間の予定であった放映が、好評のために延長され、多くの方が観賞した。



## アートポリスを見て学ぶ

平成27年度は、韓国を中心に国内外から約620名(事務局対応分の人数)の視察者が訪れた。視察団体の約半数は海外からで、建築団体や学生だけでなく、行政や都市計画学会、財団法人など多岐に渡る。また、KAPIは街づくりの手法の一つとして韓国の行政関係者の中で認知度も上がっているとのことで、韓国・蔚山(ウルサン)広域市のテレビ局(UBC)からの取材もあった。



行政として予算をかけない効率的な取組みであるという印象を受けた。韓国でも始まってきているが、熊本のように広域的な取組みとして成功させたい。(韓国・都市計画学会)

県全体を建築の博物館にする、“安く”だけでなく、“良い建物を建てる”というアートポリスの考え方が全国に広まっていくといいと思う。(福岡大学学生)





こども建築塾作品

発行

くまもとアートポリス事務局 (熊本県土木部建築住宅局建築課内)

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

Tel 096-333-2537 Fax 096-384-9820

E-mail: kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp

撮影: 石丸捷一、清島靖彦、宮井政次、永石秀彦、くまもとアートポリス事務局、(有)ハンズ

